



水の一滴から世界を想う地球市民の育成 「清流の人」づくり



平成22年度「学校版環境ISO」コンクールにおける取組
山鹿市立鹿北中学校

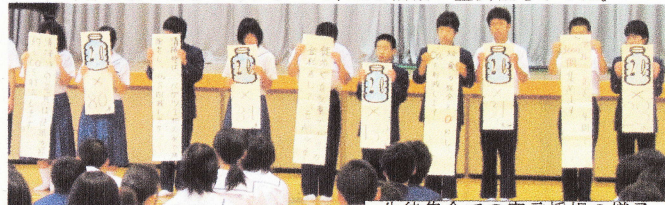
1 宣言 (1)平成22年度鹿北中学校版環境ISO宣言項目

CO₂削減目標
2ℓペットボトル
何本分？

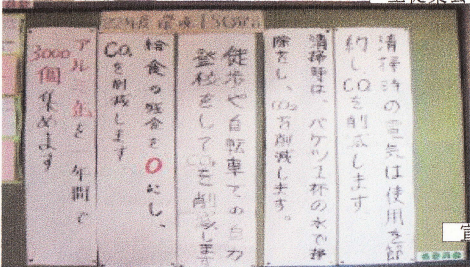
内 容	教 値 目 標
①清掃時の電気は使用を節約し、CO ₂ を削減します。	一つの教室で80本分
②清掃時は、バケツの1杯の水で掃除をし、CO ₂ を削減します。	教室一回の掃除で31本分
③徒歩や自転車での自力登校をして、CO ₂ を削減します。	1kmあたり13本分
④給食の残食を0にし、CO ₂ を削減します。	茶碗1杯で31本分
⑤アルミ缶を年間で3000個集めます。	350mlアルミ缶で23本分

内 容	教 値 目 標
①紙の消費を抑え再生紙等を利用します。	昨年度実績以上
②扇風機時には、OA機器や給湯器の電源を切り、節電に努めます。	1号機以下28度以上のときにしか使用しない。
③冷暖房機器の使用を節約します。	一日3回まで
④グリーンカーテンを作ります。	
⑤校内放送の使用を配慮します。	

昨年度の宣言文を元に環境委員会でアンケートを行い、昨年度から継続して取り組むものとして、節電や自力登校が上がった。また新たな取り組みとしてポスター作製や、調査活動を行い、行動ができたクラスに表彰を行うなどのアイデアも出てきた。自分たちが行った行動が、環境にどのように影響するのかを示すために、どれだけCO₂が削減できるのか、2ℓペットボトルで示して宣言内容の提案を行った。「地球の平均気温が2℃上がる」と地球はどうなってしまうのか?という内容を盛り込むことによって、ISO活動の重要性も示した。



生徒集会での宣言採択の様子



生徒集会で、今年度のISO宣言を採択されたことで、集会で使った広用紙を、中央廊下に掲示したすることによって、常に生徒、職員が意識できるようにした。

宣言文の掲示の様子

(2)本校の実態

学校版環境ISOには、例年取り組んできたが、宣言は行うが、その後の行動はなかなか活性化しないままであった。そこで、昨年度より、環境委員会と美化委員会を独立させ、環境委員会は学校版環境ISOを中心にやっていくこととした。そこで、昨年度より宣言についての調査活動を行ったり、生徒会執行部や他の委員会と協力して取り組むようになった。調査活動をする中で少しずつ生徒や職員に意識ができてきたが、徐々に薄れてきたという結果になった。そこで、今年は、行動することがどんな成果をうむのか、なぜ行動が必要なのかを知らせていく活動を取り入れていくことを心がけた。

2 行動

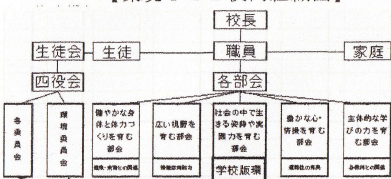
(1)環境教育計画

【平成22年度環境教育全体計画】

年度	目標	取組
平成22年度	環境教育の推進	環境教育の推進

年度	目標	取組
平成22年度	環境教育の推進	環境教育の推進

(2)環境ISO校内組織図



(3)環境ISO行動計画

月	取組	取組
4月	アンケート実施	10月 キャラクターによる掲示物作成
5月	宣言内容決定	11月 見直し 実践まとめ
6月	掲示物作成(環境グッズ)	12月 2学期の結果をグラフ化
7月	1学期の結果をグラフ化	校内研修による職員の見直し
8月	環境キャラクター名前募集	1月 行動の再構築
9月		2月 3学期の結果をグラフ化
		3月 ヴィジュアル発表 来年度の計画

学期末には、各部署が行われ、学期の反省と次の学期への志向が行われる。そこで、「社会の中で～」の部会において、環境活動に対する評価を行って行くことにした。担当者だけが環境に対する活動

行って行くのではなく、他の職員を巻き込みながら環境ISO活動を行って行くことにした。また、今年は行動計画を立てることによって、計画的に活動を行うことにした。

(2)宣言文における具体的な活動

○清掃時の節電



掃除の時間だけでなく、移動教室のときなどは、教室の電気を消すように呼びかけた。

○自力登校を進める



徒歩や自転車での登校を基本とし、毎日調査活動を行った。生徒会でも自力登校は呼びかけているが、環境委員会で呼びかけることによって、環境への視点を生徒に持たせることを心がけた。

○清掃時の節水



清掃時は、バケツ一杯の水で掃除をするように呼びかけた。毎日のバケツ使用状況もチェックした。バケツ使用は、習慣化してきている。

○残食を0にする



すこやか委員による栽培活動や担任による食育の日メニュー紹介によって、各クラスとも残食はほぼ0になっている。

○再生紙の利用

職員室で使う紙は再生紙を利用し、職員へのプリント配布用には裏紙を利用するようになった。

○校内放送の使用を配慮する
各教室にインターホンがあるため、職員や生徒の呼び出しは放送ではなくそれで行うようにした。

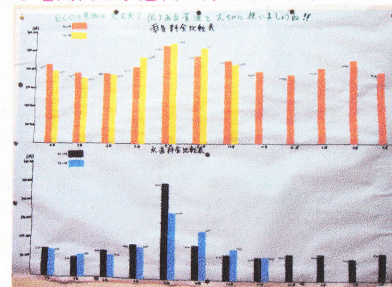
○グリーンカーテンを作る



フウセンカズラやゴヤ、アサガオなどのツル性植物を使ってグリーンカーテンを作った。夏の間の暑さ対策に一役買った。

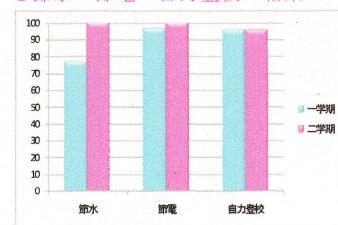
3 記録

○電気代と水道代の月ごとのグラフ



前年度と比較できるようにしている。4～6月は前年度よりも低かったが、今年は猛暑のため、7～9月は電気代が前年度よりも高くなった。また、耐震工事に伴い、教室や廊下に日射しが差し込まないこともあり、日中は校舎内は蛍光灯を点灯していることが多かったことも関係していると考えられる。

○節水・節電・自力登校の結果



左のグラフは、あるクラスの1学期と2学期(11月途中)までの比較である。調査活動の結果をグラフ化し、クラスに掲示することによって、各クラスの生徒が意識できるようにした。この結果、1学期よりも意識して節水をしたり、係を中心に節電を心がけるようになった。

4 見直し

(1)1学期の見直し

- 調査活動の結果をもとに、環境委員会で見直しを行った。
 - ・節水の割合が低い
 - ・節電ができていないときがあった。
 - ・雨の日の自力登校が低い。
 - ・キャラクターによる行動の呼びかけ
 - ・行動の必要性を呼びかける掲示物作成
- 【一学期の調査結果より】

見直しの結果は、生徒議会に挙げる共に、環境委員が各クラスに報告した。

(2)2学期の見直し

- 11月の環境員会で調査結果をもとに、見直しを行った。
- ・節水や節電の割合が上がった。
- ・手洗いや歯みがきのときに、水を出しながらやっていることがある。水道代が前年度よりも上がっている。
- ・トイレの電気がついたままになっているときがある。
- ・アルミ缶回収ができていない。

- ・キャラクターを使った節電や節水のポスターを小さくして電気スイッチや水道の近くに貼る。(自力登校は、昇降口などに貼る。)
- ・アルミ缶回収の計画を立てる。(三学期にかけて)

5 その他の取組

(1) 啓発活動

○啓発キャラクターの募集



ISO活動がより身近に感じられるように、キャラクターと名前の募集を行った。

○このまま温暖化が続くと・・・



このまま温暖化が続くとどうなるのか?というテーマで、将来、予想される私たちの生活についてのポスターを作製した。こうならないためにISO活動に取り組もうと呼びかけた。

(2) 生徒会の取組

○生徒会四役

- ・清流の道プロジェクト
(清流の道の清掃活動を通して、季節の変化を感じさせる)
- ・ペットボトルキャップ集め
- ・書き損じはがき集め
- ・地区生徒会によるボランティア



夏休みに地区ごとに清掃作業などのボランティアを行い、環境保全への関心を高める

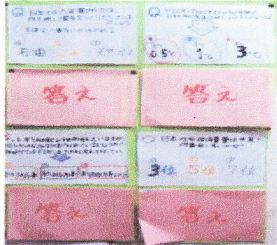
(3) PTAの取組

○母親部の取り組み



この研修の様子は、文化祭において掲示物を作成したり、作品の展示を行った。

○環境クイズ



環境問題への関心を持ってもらうために、環境クイズの掲示物を作成した。休み時間や昼休みに問題に答えている姿が見られた。全部で16個の問題を作成した。

○帰りの会での環境への関心を高める活動



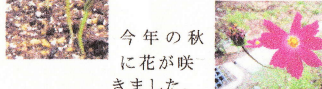
生活環境部の班が、環境への関心をクラスみんなに高めてもらうために、環境に関するクイズを出題した。「日本のCO2排出量は?」

○すこやか委員会

- ・ミニトマトの栽培
- ・ノーゲームノーテレビデーの実施
- ・給食残食調べ

○美化委員会

- ・各教室ごとにひまわりやアガオの栽培
- ・コスモスの種まき



今年の秋に花が咲きました。

種から育てることで、生物の生命力や尊さを感じさせる。

(4) 教科等における環境問題に対する学習

○1年生 総合的な学習の時間

今年の1年生は、「50の心で学ぼう、農業と鹿北」をテーマに学習を行った。農家での体験学習のほかに、梅ちぎりを行って梅干しや梅シロップを作ったり、落花生を育てた。栽培活動を通して、生物の生長を実感したり、自然の恵みを実感する感性を養うことをねらっている。



○1年生 自由研究「清流岩野川」

水生昆虫やpH測定、パックテストなどを通して、岩野川の水質調査を行った。きれいなイメージを持っていたが、濁っている場所にすむ指標になっている動物が上流で見られるなど、意外な結果がでてきた。



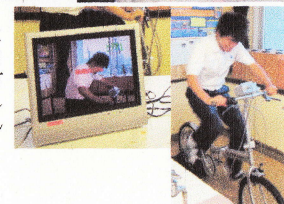
○2年生 理科「生物多様性を守るために」

今年は、国連が定める「生物多様性年」であり、名古屋条約集結会議が行われた。そこで、動物の学習内容で、生物多様性を守ることが大切なことを学習した。



○3年生 理科「エネルギー資源」

発電方法を学習する中で、九州電力より自転車発電機を借りてきて、実際に自転車でテレビをつける体験を行った。有効資源に変わる自然エネルギーを利用した発電方法が開発されていることも学んだ。



6 成果と課題

(1) 成果

○「3記録」の「節水・節電・自力登校」の調査結果より、一学期は、節水が75%程度であったが、二学期にはほぼ100%になった。節電も二学期になり割合が高くなった。啓発活動や、環境委員が毎日調査活動をしていることが他の生徒への意識へとつながっていると考えられる。

○「3記録」の「電気代や水道代の月ごとのグラフ」より、年度当初は昨年度よりも値段が低かった。グラフ化して視覚的に表示することによって、自然と意識して行動することがうかがえる。

○今年、ISO活動計画を立ち上げたことによって、昨年度より計画的に活動を行うことができた。5月に全校生徒にとったアンケートや生徒議会などからもらったアイデアをもとに表彰を行ったり、キャラクターを募集して啓発活動を行うなど、昨年度より一歩進んだ取組を行うことができた。

○環境教育全体計画や、年間計画の見直しをすることで、様々な生徒会の活動や、総合的な学習の時間、教科において関連しているものが多いことにあらためて気づくことができた。今後は、職員や生徒が意識できるように働きかけていくことが大切である。

(2) 課題

○ISO活動の提案当初は生徒の意識も高いが徐々に薄れていく。「3記録」の「電気代や水道代の月ごとのグラフ」より、後半になるにつれて消費量が増えている。新たに呼びかける活動が必要である。

(キャラクターによる呼びかけ→)

○宣言において、実施できていない項目があるため、今後内容を検討し、計画していく。

○活動を広めるために、環境委員会に広報部を設け、家庭や全校生徒に知らせていく活動をしていきたい。



水の一滴から世界を想う
地球市民の育成「清流の人」づくり



平成22年度「学校版環境ISO」コンクールにおける取組
山鹿市立鹿北中学校